

広報広聴特別委員会 会議録

開催年月日	平成28年8月22日（第4回）			
開催の場所	湖西市役所 委員会室			
開閉会時刻 並びに宣告	開会	午前 9時58分	委員長	馬場 衛
	閉会	午前11時42分	委員長	馬場 衛
出席並びに 欠席議員 出席 9名 欠席 0名 〔凡例〕 ○は出席を示す ▲は欠席を示す	氏名	出欠	氏名	出欠
	楠 浩幸	○	馬場 衛	○
	渡辺 貢	○	中村 博行	○
	吉田 建二	○	神谷 里枝	○
	加藤 弘己	○		
	荻野 利明	○		
	豊田 一仁	○		
説明のため 出席した者の 職・氏名				
職務のため 出席した者の 職・氏名	次 長	尾崎 修	書 記	加藤 紘騎
会議に付した事件	別 紙 の と お り			
会議の経過	別 紙 の と お り			

広報広聴特別委員会会議録

平成28年8月22日（月）

湖西市役所 委員会室

湖西市議会

[午前9時58分 開会]

○渡辺副委員長 それでは、おはようございます。多分、お盆の休み疲れで大変だと思いますけれども、今週からいよいよ仕事が始まります。よろしくお願いいたします。

それでは委員長、開会とその後の進行をよろしくお願いいたします。

○馬場委員長 どうも皆さん、こんにちは。大変暑い日が続いております。そんな中で台風も、この地区は避けて関東地区へ行ったということですが、それでも静岡の東部では大分被害が心配されることになっております。

本日は、第4回の広報広聴特別委員会を開会させていただきます。委員の方には全員の御参加をいただきましてまことにありがとうございます。

それでは早速、議事に入っていきたく思いますのでよろしくお願いいたします。

発言は必ず挙手の上、指名に基づきマイクのスイッチを入れ御発言をいただきたいと思います。

本日の予定は、次第のとおりでございます。それでは議事に入らせていただきます。

まず、視察についての意見交換ということで、先日8月4日、5日、京都府亀岡市、福知山市について行政視察を行いました。広報広聴に関係ある部分での行政視察ということで、なかなか先進的な取り組みをされているというふうなところもあります。これからの湖西市の広報広聴の活動について参考になったのではないかなと思っております。そんな中で、それぞれ皆さん方から成果報告書等もいただいておりますが、まだ全員ではないですけれども、あすの全協の中で報告できればというふうな思いでございますので、皆さん方の御意見をいただき、今後の活動の参考にできればというふうに考えておりますので、御忌憚のない御意見をよろしくお願いいたします。

御意見については、それぞれフリーで御発言いただければと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

最初に研修先を決めたほうが発言しやすいかと思っておりますので、亀岡市について、どなたか御発言があればと考えておりますが、いかがでしょうか。渡辺副委員長、お願いします。

○渡辺副委員長 それでは、亀岡市ですが、亀岡市で一番感じたのは、28年度から見直しをしまして。これに尽きるというふうに思います。どこも議会報告会で悩んでいるんだなというふうな印象の中で、このほかに四日市市と亀山市も議連のメンバーは勉強させていただいたんですけれども、いずれもそれなりの悩みを持っているなということで、議会の報告等、皆さんの意見を聞く「議会と語ろう」とか、「わがまちトーク」とか名前がいろいろありますけれども、そういう中でどちらかというと意見聴取のほうを重点的に、それぞれみんなやっておられるなど。議会報告もやらないことはないけれども、非常に限定的に議会報告はやっている、そんなふうな印象がありました。そこらを踏まえて、湖西市はどうすべきかということで、去年の提言もありますし、ことしをどうしようかと。まだ先の話ですが、ここら辺を検討していかなければならないなど、そんなふうな感じがいたしました。

以上です。

○馬場委員長 渡辺副委員長のほうからは、亀岡市については28年度から議会報告会の見直しを行っている。今、発言されたとおりでございます。それを踏まえて、後の方でどのような感じがされたのか、御意見があればお願いいたします。感想で結構ですので、よろしくお願いいたします。楠委員、お願いします。

○楠委員 私のほうからですが、亀岡のほうですが、今、渡辺副委員長がおっしゃられた議会報告会と「わがまちトーク」の、これは別々に開催をするように変えたというふうなお話がありましたけれども、私のほうからは、市民の方に市政に関心を持ってもらうという意味では、子ども議会ですとか高校生会議について、積極的に主催者教育と絡んで、教育委員会と連携しながらやられているよというところは、やはり若年層からも市政に関心を持ってもらって、自分たちの意見が市政を動かしていくという実体験を持つことによって、市民の意識が高くなっていくんだよということを実践されているんだなと。ここをちょっと見習うべきところかなというふうに感じました。

以上です。

○馬場委員長 ありがとうございます。鉄は熱いうちに打てというのではないけれども、若いときから早くそうい

ったものに関心を持たせれば、結構意識も上がっていくよというふうなお話が確かにありました。高校生議会をやったということで、うまく教育委員会とタイアップできたというところもあったと思うんですけども、その辺のところの取り組み方も前進的な考えかなと感じました。ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。これからの、こういうこともいいねというふうなことでも結構だと思いますので。最初は亀岡市のほうは、議会だよりのほうの関係が最初に出てきたので、いきなり「あれ、ちょっと違うかな」という思いもしたんですけども、議会だよりのほうも大変重要な部分だと思うんですが。特に亀岡市に限らず、次の福知山市のほうに入っても、両方とも結構ですので、行政視察の目的については同じ形で行わせていただきましたので、特にこだわらずに結構です。吉田委員。

○吉田委員 亀岡市のほうで28年度から報告会と「わがまちトーク」、いわゆる市民から聞くのを分けてやりましょうというお話があって、26年度には、「わがまちトーク」のみ開催したということで、僕は自分でなぜ報告会をやらなかったのかということが書いてあるんですけども、それに対するメモが抜けているんですけども、そこら辺、皆さんの中で、なぜ26年度には報告会をやらなかったかということをも、もし記憶のある方があったら教えていただきたいなと思います。分けるということは、先ほど、渡辺副委員長も意見を言われていたようですけれども、市民からできるだけ意見を聴取していきたいと。それに何というか力を入れるという、その意味はわかるわけですけれども、聞いてそれを政策提言だとか、何かにつなげていくような。これは議会運営委員会で行った、亀山市だとか四日市市のほうではやっていたんですけども、そういうようなところでいく、そこら辺も自分としてうろ覚えだったものから、もし委員の皆さんで、こうだったよということがあったら教えていただきたいなと思います。よろしくお願いします。

○馬場委員長 吉田委員の意見に対して、たしか人がだんだん少なくなっているというのが1つあったと思うんですけどね。ほかにも、その点についていかがですか。

○渡辺副委員長 吉田委員の質問に合うかどうかわからないけれども、僕のメモは26年度議会報告会をやめた理由は、議会の選挙の前で、その会場へ議員が行かせてもらっている心でやるべきなのに、議員は行ってやると。「地域のために俺は行ってやるんだ」というような誤解をしている議員が全体の中に何人かいて、本当ではないなど。議員が地域に入らせていただくという心が抜けてしまっていて、「俺は行ってやるんだ」と。高飛車な気持ちで、要は必要性を余り認識していない議員が何人かいて、そういうことで合意が至らずにやめましたと、こういう説明を聞いたかと思えます。

○吉田委員 ありがとうございます。これは聞き漏らしてしまったなと思って。そう言えば、聞いたような感じもちょっと今思い出して、ありがとうございます。

○馬場委員長 ほかにいかがでしょうか。中村委員、お願いします。

○中村委員 私も渡辺副委員長の言うように、年度によってそれぞれ、最初に報告会だけやっていて、年度によって、それぞれやり方が変わっているんだなというふうには、私は後で、このものを見て解釈したんですが、23年、24年は各会場平均すると16人ぐらいの参加であって、それでまた考えて、「わがまちトーク」を26年にやって、それからまた議会と報告会と、「わがまちトーク」をあわせてやったように私は聞きました。それでも人数としては平均すると19人ぐらいで、それほどふえてはいないということで、どこのまちも人を集めて報告会をするのに苦労しているなというふうな感じを受けました。それで、我々もみんなの意見を聞くというふうな方向でやったほうが、テーマを決めたりなんかして、話を1つにまとめてやるには、やりやすいのかなという感じを持ちましたが。いずれにしても、それぞれ両方とも苦労していると。また、両市ともいろいろ必要に応じて議長の記者会見をやったり、役職の所信表明などもやっていると。高校生議会も一応やっているということで、それぞれ我々のところよりも、いかに情報を出していこうかというスタイルが一応感じとれました。

以上です。

○馬場委員長 加藤委員、お願いします。

○加藤委員 皆さんと同じですけれども、今中村委員が言ったように、かなり情報を出しているということで、その件につきまして、早速帰って亀岡市の議会のホームページを見ましたところ、亀岡市のフェイスブックで皆さんが見れるように、湖西市議会の広報広聴特別委員会の皆様の視察をお迎えしましたというようなことで、すぐこのようなことを市民にぱっと公開すると。これは大したものだなと思いました。

○馬場委員長 その日のうちに、ある程度。次の日でしたかね。4日だと、もうその日のうちだね。荻野委員。

○荻野委員 まず、議会報告会を予算についてやったということですからけれども、予算決算なら、最低限議会として報告しなければならぬ内容ではないかなというふうに思います。年2回というのは面倒くさいけども、なかなか。でも最低限必要ではないかなと。「わがまちトーク」も委員会ごとにやってもできると思いますし、いろいろな団体、関係する団体との懇談というのはいつでもできると思いますので、これはどしどしやってもいいのではないかなと。

もう一つ、高校生議会。今まで主権者としての教育というのは学校教育の中で、ほとんどやられてこなかったという現状があると思いますので、ぜひ主権者としての教育という意味で、こういうのは積極的にやっていってもいいのではないかなと思いました。

以上です。

○馬場委員長 ありがとうございます。神谷委員。

○神谷委員 まず、両市とも視察をさせていただきまして、広報広聴特別委員会としての役割が明確になっていたということを実感しました。私たちは今回、特別委員会の設置をして、議会の大きな役割である広報広聴をどのように進めていくかということで勉強をさせていただきに行ったと自分では考えております。そういった中で、まず、どちらも議会だよりということが大きなものになっていましたけれども、議会だよりに関しましては、私は湖西市の議会だよりのほうが市民の皆様にとっても、より読みやすい状況になっているのではないかなということを実感いたしました。

私たちは、とりあえず報告会をどうするかということが一番先に頭にあって、ここまで来てしまっていたものですから、一度スイッチを入れ直して、見直して視察に行って、では湖西市議会の広報広聴として、今回いろいろ先進的な地域を見させていただきましたので、じゃあ、例えば、来年度以降、広報広聴としてどういった方向でいくかということ、この委員会である程度まとめて、また、全協なり議運なりに諮って行って、議会の役目である広報広聴をしっかりとやっていけばいいのではないかなと思いました。やはり今18歳からということで年齢が引き下げられまして、本当に高校生議会というものには興味を抱きました。そういった中でも、まず自分たちが取り組みそうという意見が、この委員会の中でまとまりましたら、いろいろなルールづくり、また、いろいろな団体から意見を聞いているというところもありましたよね。逆に自分たちの活動を議員さんにも聞いてもらって、それからまた、意見交換をしたという、そうやって活性化を図って表彰を受けているような話も聞いたように思いますので、そういった形を持っていくルールづくりを、私はこの広報広聴特別委員会の中でもやっておくことが重要ではないかなと。そんな感想を抱きました。

以上です。

○馬場委員長 ありがとうございます。豊田委員には体調不良ということで大変でしたけれども、無事帰ってこれてよかったなど、そんな思いでございましたけれども。後は、ちょっとお話を聞いていただければと思いますが。亀岡市については、確かにしっかりした取り組みというか、いかに情報発信して市民に知っていただける、いろいろな手法を考えて取り組んでおられると。また、両市についても、福知山市、亀岡市を選択して行政視察先としてよかったのではないかなというふうに私は感じております。これを今、神谷委員が言われたように、これからの湖西市の広報広聴の活動にどう生かしていくかということ、進め方については、この後また皆さんの御意見をいただいて、いかに議会だより1つとっても、検証されていないんですね。いいものをつくっても、どこまで本当に浸透しているか

というところもあるものですから、そういったいろいろな部分も含めて皆さんの御意見をいただきながら、この行政視察のことが生かされるような取り組みをしていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたしたいと思っております。

引き続き、福知山市のほうも感じたことを御意見いただければと思っておりますが、福知山のほうはいかがですか。あと、亀岡市のほうは、大体それでいいですか。御意見としては、ほとんど出していただいたと思っておりますが、あと全体の中で、また言っていただいてもよろしいかと思っておりますので。一応、福知山のほうの行政視察について御意見をということで、お願ひいたします。楠委員、お願ひします。

○楠委員 福知山市のほうでは、幾つかカテゴリーでお話をいただいたんですけども、一番印象に残ったのが、議会報告会で「市議会と語ろう」でしたかね。平成23年から年2回開催をされていて、近年では婦人会ですとか商工会、青年会議所ですとか、座談会形式で議会報告会を開催しているよというところで、ここの相手を見ると女性と若い人を対象に、座談会で議会報告会をやっているよというようなことと、あともう1点、出張委員会というのを常任委員会が積極的に各種団体に1年に1回出向いて、関係者から説明を受けて意見交換をやっているよというところが非常に印象的でした。ほかのことにつきましては、また、ほかの委員さんのほうからあるかと思っております。

私のほうからは以上です。

○馬場委員長 ありがとうございます。なかなか取り組み方というのは積極的に出向くというのが結構印象に残りましたけれども、ほかにはいかがでしょうか。福知山市も御多分に漏れず、報告会も複数回の開催をしても参加者が伸びないといった悩みの話があったわけですが、それから座談会形式というか出張形式とか、いろいろな取り組みをされていましたが、その点についての御意見がありましたらお願ひしたいと思っております。加藤委員、お願ひします。

○加藤委員 僕は特に行政視察研修報告会の実施だとか、役職選出に係る所信表明会の実施、余りやりたくないと思うけど、大したものだなと思いました。いや、すごいなど。自分たちはこういうふうにするんだぞというふうに決めて、それに向かってやっていると。こういうふうにやらないと、やれないのかなど。御免こうむりたいと思っておりますけれども。

○馬場委員長 ありがとうございます。なかなかやりにくい部分があったんですけども、行政視察の報告会でも「ああ、すごいな」と感じましたけれども、市民の意見として、「おまえら見てきたけれども、実際はどうやっているんだ」というのが声としてありますので、方法の1つとして知ってもらう部分では有効な手段かなと思っておりますけれども。ほかにはいかがでしょうか。渡辺副委員長。

○渡辺副委員長 さすがにマニフェストのレベルの高いところというのは、嫌なことを果敢に取り組んでいるなど。やりたいか、やりたくないかと言えば、やりたくない。だけど、これは市民のためになるかどうかという判断からすれば、やったほうがいい。嫌だけどやろうと。そういう気持ちが両市ともしっかりあらわれていたという印象です。だから私たちがどういう気持ちになるかというのは、ここを見習うべきだというふうに思いました。

それと議会報告会と、「わがまちトーク」、さっきと同じですけども、やはり2つに大きく分けて、議会報告会はええじゃないかということにはならないと思うんですね。だけでもコンパクトにまとめて、さっき荻野委員がおっしゃったように年1回か2回、予算と決算のときに、それに合わせて議会報告会をやって、後は「わがまちトーク」、「議会と語ろう」というようなことで、自治会版と各種団体版というような説明がありましたけれども、各種団体版は全体でやるのもいいと思うし、基本的には常任委員会で各種団体版をやって、自治会版はこの組織でやると。そういうふうな振り分けになるのかなという印象を持ちました。

以上です。

○馬場委員長 ありがとうございます。やはり嫌なことを積極的にやらなければいけないということですね。意識を持ってね。荻野委員、福知山どうですか。

○荻野委員 特にありません。

○馬場委員長 神谷委員、お願いします。

○神谷委員 たしか福知山でしたか、合併してすごく遠くから議員が1時間ぐらいかかって、でも、これだけすごく、今皆さんおっしゃるように行政視察報告会とか、常任委員会の報告会とか、物すごい活動をやっていたらいいから、これだけ情報提供していれば、私は本当に逆に言うと、改めて議会報告会を設けなくてもいいではないかぐらいに思いました。終わって帰りがけに説明して下さった議員さんに、「これだけ活発に議員活動をやっていたらいいと、議員の間から不平不満が出ませんか」とお聞きしましたら、やはり「出る」と言っていましたけれども、それを押し切って自分たちは取り組んでいるというお話をいただきましたので、今、渡辺副委員長がおっしゃいましたように、本当にこういった視察を生かして自分たちの意識改革をいかに図れるかというところに行くのかなという感じはいたしました。

○馬場委員長 まさに言われるとおりに思うんですね。本当に合併によってかなり広範囲なところから。でも浜松に比べれば、まだいいなと内心思ったところもあるんですが、浜松は3時間だよなという。やはり議会へ来る回数は物すごくふえたというのもお話の中で出ていましたし、やはり年配議員というと失礼になるかわかりませんが、そういった方には多少、「ここまで俺たちはやるのかよ」というふうな御意見もあったというのもお話の中で出ていました。やはり今言われるように、なかなか市民の求めている部分について、いかにわかりやすく説明できるか。それは我々にとってはやりたくない部分もあるかもわかりませんが、意識改革の中でやっていかなければならないというふうな形かと思えます。そんな中で、これからの湖西市の広報広聴のあり方について、また順次検討をして、ことしは何と何と何をやるかというふうな方向性を出していきたいと思っておりますのでよろしくお願ひしたいと思っております。

それでは全体を通じて、今回の行政視察の中で、湖西市もこれはやりたいねというような御意見がありましたら、お聞かせいただきたいと。まだ最終的にどうこうというのは、これから検討していきたいと思っておりますので。これはちょっとまねてもいいというのがあれば、ぜひ御意見をいただいて、それに対してまた皆さんと検討して、広報広聴特別委員会の進め方についてまとめていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひいたします。渡辺副委員長、お願いします。

○渡辺副委員長 きょうに当たって、きょうはどういう話し合いをするべきかということ、それなりに整理をしなければいけないなと思って来たんですが、特別委員会と議運で見たところの4市ですね。いっぱい聞いてきたものですから、頭がごちゃごちゃになってしまったんですが、思ったことは、まず議会改革全般、基本条例も含めてですね。議会改革の推進組織は常設でなければいけないなと。最終的には全協というか、全員でやらなければいけないと思うんですが、全員でいつもやるわけにいかないので、メンバーを選んで検討会議みたいなものを、これは亀山市でしたか、会派の代表者で検討会議をつくって、6人でやっているということですが、そこで大体整理をして全体にかけるというふうな方式で、条例の検証・見直しというのは4年に一度でもいいと思うんですけれども、それぞれ課題が出てくるので、その課題は随時検討をするというのが必要だなというふうな思いがいたしました。広報広聴特別委員会とは直接関係ありませんけれども、そんな印象を持ちました。

なぜ、こういうことを言うかということ、今回の広報広聴特別委員会と地域医療等対策特別委員会と2つにしたことについて、この組織のあり方、広報広聴特別委員会というのはどういう役割なのかというのが、私もよく見えないんですね。そういう意味で今、議会改革とどういうリンクをさせるかというのがあったものですから、そういう思いがいたしました。

それから、広報広聴特別委員会も、できれば常設のほうがいいのではないかなということで、これもどこでしたかね。広報部会と広聴部会と分けてやっているんですが、広報部会は当然のことながら議会だよりとかホームページとか、広報に関するやるべきことはあるだろうなというふうに思いますが、議会だよりは、湖西のレベルはかなりいいというふうに、さっき神谷委員がおっしゃっていましたけれども、私もそういうふうに思っています。事務局がしっかりしているという点もあると思っておりますけれども、うまくできているなということで思います。問題は広聴なんです

が、広聴は議会報告会をどうするか。議会報告会と市民の意見を聞くという場面ですが、前年度の提言を見ますと、前年度の提言は議会報告会の開催は年1回が適当だと。開催方法は全員参加をして、大規模なものを2カ所ぐらいやって、議員三、四人のグループに分かれた小規模な会を数カ所やると。常任委員会を主体に各種団体や若年層も配慮した話し合いのものをつくると。グループディスカッションもいいよという、これはいい提言があるので、これを一応無視するわけにはいけないので、これでまず考えなければいけないと思うんですけども。ちょうど曲がり角にあると思うんですね、3回やって。結局ここで決めてしまうと異論が出るんです。異論が出ました。これはここで決めてはいけないなど、私は思いました。というのは、正副議長がまず入らなければいけない。正副議長から文句が出ると、話をしたことが潰れてしまうんです。もう前回凝りましたので、ここでは決めないと。そのための話し合いを事前にやらなければいけない。それは正副議長、欠かせないのが委員長、それと特別委員会。骨子はちょっとじっくり、そのメンバーで話し合いをしないと、ここで相談して、こうですよと言ったら、また潰される可能性がありますので、こんな無駄なことはしたくないというふうに私は思っています。

それから、「わがまちトーク」というのは常任委員会による広報活動ということで、これも検討したほうがいいなと。これも常任委員長さんの思いもあるものですから。

それともう一つは、あと基本的なことだけ、さっき言った正副議長が入ったところで決めていただいて、後は任せるのでやれよというなら、ここでやればいいと思うんですけども、一回それをやらないとまずいのではないかなというふうに思いました。

それから高校生との話し合い、これはここで煮詰めていけば、どんなことができるかというのは相手先もあるので、そういう検討をすればいいのではないかなと。そんなふうなことを考えながら、あと細々したことはいろいろあると思いますけれども、それは随時やるということで、そんなことを少しステップを踏んで、来年の1月、あるいは2月に備えたらいかかなというふうに思いました。

以上です。

○馬場委員長 ありがとうございます。当初は特別委員会の委員長という形で、私もこの場合にいたんですけども、当面、議会報告会を何とか早くやればいいかなという思いがあったし、そんなところで今、渡辺副委員長が言われたように、やはり議会が中心になる部分ですので、やはりそこで議長という立場の中で御意見をいただけるという、我々もなかなか決まったことを、議長が言われると、方向がちょっと違うだけでも、ある程度尊重していかねばならないという部分もありますので、何らかの形の中で決定する前に、方向性だけでも議長を交えた会を、委員長さんを交えた中で方向性を出していかなければ、この広報広聴特別委員会自体もスムーズにいかない部分も出るのかなということは感じております。ただし、任された以上は、我々もせっかくこれだけのメンバーがおられますので、いい結果が出るように、そのための行政視察の御意見をいただいているということでございますので、その中で進めさせていただきたいと考えております。

この後、まだ行政視察のほうだけ、もうちょっとまとめて御意見をいただいて、その後、これからの湖西市の広報広聴のあり方、進め方について、最終的にはきょうお考えを尽くしていただいて、改めてことしは何をするということの結論を出していきたいなというように考えておりますのでよろしく願いいたします。もう少し行政視察の関係で、これはどうだったなというようなことを御意見いただければありがたいと思うんですが。中村委員、何かありませんか。

○中村委員 私も皆さんと一緒に、やりたくないなと思うことをそれぞれやっておられると。参加者もそれをやった割に、それほどないんだけど、一応形としてはやっていくというふうに私は思いました。そういうふうな段階にやっていけばやっていったなりに、また、そこでいろいろなことを経験して、1ステップが上がっていくので、そういう1つのやりにくいことをやるというのも、自分たちの議会のレベルアップには必要かなと。そんなふうにもりましたが、でも、余りやりたくないというのは実情です。そういうふうに感じました。

○馬場委員長 荻野委員、予算決算のところの報告会をやるべきだねというふうな話もあったんですけども、両市ともそんなに今の段階では、報告会自体は、そこだけにはこだわっていないと思うんだけど、その辺はどうですかね。

○荻野委員 やってみて、人が余り来なければ予算だけという場合もあっていいかなとは思うけどね。やはり市民との双方向ということのほうが大事だと思うものですから。やはりトーク的な、そういったことをやったほうがいいのではないかなというふうに思っています。

○馬場委員長 やはり先進地になるというと、やりたくないことをやらなければいけないというのが、あれだね。義務的になってしまうと、なかなか負担も多くなるとは思うんですけども、それでもある程度、余りランクにこだわりたいんだけどね。豊田委員、視察自体は参加されてなくて、聞いた雰囲気ではいかがですかね。聞かれた雰囲気でも、大変難しいですけども。

○豊田委員 さっき副委員長のほうから、きょうここで何を話をすべきかが問題だということはありませんけれども、まさにそこへ差しかかってきていると思います。いわゆる助走を終えて、いよいよ特別委員会としての結論に向けての方向性、どういったものをより具体的に組み込んでいくかというところで。きょうの段階で、とりあえず視察のまとめができて、それぞれの吸収すべきことが確認できた状況の中では、次に、本当にこの委員会として、ことし何を取り上げて、どういう方向に進むべきかということをつかんでいかないと、ちょっと結論が出し切れなところへ来てしまいますので、議会報告会も大事なことですけれども、委員会開催の当初の時期に皆さんから出されている幾つかのテーマがあると思います。そういったものを見直ししながら、もう一度セレクトし直して、より突っ込んだ意見交換に進めていけたらなという希望だけ持って参加させていただきます。

○馬場委員長 ありがとうございます。行政視察への両市の感想については、この辺でよろしいですかね。ほかに御意見があれば、もう少し時間をとりますけれども。どうぞ。

○吉田委員 私は両市を視察させていただいて、報告会については、湖西市の報告会はまああのところではないかなというように思います。会場も5会場で行っているんですけども、ほかの市でいくと2会場だったり、3会場だったり、比較的人口規模というか、市の規模の割にしては数が少ないなど。うちは一応5会場でまあまあだと思うし、内容については予算決算もありますけれども、特に重要な議案、賛否が分かれた議案だとか、特に市民にとってはこれから大きく変わってきますよと。総合計画に関することだとか、公共施設のこととか、そういうことの審議経過、賛否が分かれたとか、あるいは賛成とか反対の討論があったとか、そういうようなことを市民の皆さんに報告してあげると。もっと詳しく見たければ「You Tubeを見てくださいね」とか、これは必要だなと思うんですけども、そういうことで、報告会は従来どおりでいいのではないかなと思います。

後は市民の皆さんの声を聞いて、それをいかに政策提言につなげていくかということの関係については、なかなか全体でやるというのは大変ですので、各常任委員会を中心に、各常任委員会ごとに自分たちのテーマを設定するなり、各種団体だとか、あるいは地域に行くとか、自治会に呼びかけるとか、各常任委員会の活動の中でやっていくと。そうすると政策提言へ持っていくのも比較的いいのではないかと。全然関係のないものが出てくる可能性もあるわけです。そうしたら、こんな意見がありましたということ、その常任委員会にお知らせしてやって、常任委員会がそのことをやりたいなと思えば、今度その人たちが先にやったところにまた行って、やっていくという。そんなことでやっていけば、自分たちの意見を議会の皆さんは聞いてくれているなど。こういう市民の受けとめがあれば、議会に対する信頼も少しは高まってくるのではないかなと、こんな感想を視察を通して思ったというのが自分の気持ちです。

以上です。

○馬場委員長 やはり市民が一番関心を持っていることを委員会単位で行うのか、ある程度の代表者なり議会全体として、湖西市で言えば市民会館、新居地区で言えば、新居を視察したときには防災関係で津波対策とか、そういったところを本当にフリートークでやって、先ほど言われたように、こうなりましたというのではなく、議会審議の過程でこういう意見も出たよというのも知らせるとというのが、先ほど議決の賛否が分かれたようなところも、何で分かれ

たというところが、市民にとっては一番関心があると思うものですから、そこらのところは実際の議会へ傍聴に来ていただければよくわかると思うんですけど、その辺を来れない方にどう伝えるかというのも大事なことかなと思います。やはり関心がないことについては、いくら言っても余り伝わらない部分になってきてしまうものですから、やはり関心を持っていることについて、こうやりましょうという、こういう話し合いをしましょうとなれば、かなり効果が出てくると思いますので、その辺も含めて、これからどういうふうにしようかなというふうに考えていきたいと思いませんけれども。

それでは、ここで暫時休憩とさせていただきます。その後、ことし広報広聴としてやりたいということをお話し合いをしたいと思います。

午前10時43分 休憩

午前10時55分 再開

○馬場委員長 それでは休憩を解いて、会議を進めさせていただきます。

ここからは、この広報広聴特別委員会、この行政視察を糧に参考にした中で、これからの進め方といたしますか、先ほどの意見の中でもありましたように、広報広聴特別委員会自体が湖西市議会の中の位置づけとして、ちょっと不安定なところも感じる部分もありますので、先ほど渡辺副委員長から御発言がありましたように、議長、副議長を交えた、また各常任委員長を交えた何らかの形の組織の中で、ある程度の方向を決めていただいて、我々のほうへある程度こういう形でやってくださいとなれば、このメンバーでしっかりとした取り組みをしていかなければならないかなというふうに感じております。それについて、きょうは結論までは出なくてもいいですが、ある程度は方向を出せればと考えておりますので、皆さん方の御意見をいただきながら、これとこれだけは最低限やりたいね、やっていきたいねというふうな御意見まで出していいただければ大変ありがたいと思っていますのでよろしく願いいたします。

それでは、今後の湖西市広報広聴特別委員会の活動について御意見をいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

○渡辺副委員長 さっきの続きの話になるんですけども、必ずやらなければいけないのは、議会報告会をやらなければいけないものですから、それを決めなければいけないと。決めるに当たって、さっき言ったように、ここで案を出していくと、またいろいろあるので、たたき台みたいなものは話し合っておく必要があると思いますけれども、基本の基本、まずいつやるか、会場はどうするのか。何回ぐらいやるのか、それから開催の方法、報告の内容、どのような形でやるのか、議員の役割分担みたいな、そういう基本の基本をまず話をしてもらって、それを踏まえて正副議長さんにも、さっき言ったようなメンバーに入ってもらって、ちょっと事前相談をしておいて、これなら行けそうだなといったら、ここでもう一回持ち帰って最終的に決めると。このステップは今回とったほうがいいのではないかなというのは、3回やっているいろいろな反省があるので、さっき吉田委員は湖西は5会場でやっていいではないかなという感想もありましたけれども、それもそうだなというふうに思うし、そんなふうな話を、基本の話だけ方向が決まれば、ここで具体的にどうしましょうかというのをやりやすいなと思うものですから、そこのところを、ちょっと話し合っただけでどうかと思いますけれども。

○馬場委員長 今、渡辺副委員長のほうから、議会報告会の開催の件につきましては、当委員会が発足したときに、報告会をやるねということで、日程も設定してというような形の中で一時進めましたが、この部分については、議会報告会にこだわってよろしいですかね。その中でまず意見をいただくという形でよろしいですかね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○馬場委員長 では、議会報告会をやるべきかどうかについての御意見をいただきながら、少し内容もあわせて御協議いただければと思いますが、それについていかがでしょう。あと、いつごろになるかということまで、自分の考えで結構ですので、御意見をいただければと思います。報告会をやるべきだということはどうですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○馬場委員長 この部分については異議なしということで。あと、内容は別にして、いつごろ。これが一番重要な時期になってくるものですから。吉田委員、どうぞ。

○吉田委員 物理的にというか、12月議会は、今回は市長が新しく変わられるということで、12月議会は1月の上旬までずれ込むと思うんですね。そういうことでいくと、早くて1月の下旬に照準を合わせると。2月に入ってしまうと予算大綱も決まってくるし、また3月議会のそれぞれ準備になるものですから、1月下旬にとにかくやるということで日程調整をしたらどうかと私は思います。

○馬場委員長 今、議会報告の開催については、吉田委員のほうから1月下旬、これは12月議会をいろいろ考えると、そのくらいになるのではないかなという御意見ですが、ほかにはいかがでしょうか。もっと早くやるべきだということは大変だと思うんですけども。加藤委員、どうぞ。

○加藤委員 賛成ですけれども、それと、せっかくこれは2カ所見てきていいなと思ったので、そんな難しく考えなくてもいいので、高校生だとか商工会議所だとか、議会報告会をやるみたいな稼働をかけずに一回年度内にやれたらなど。来年早々でもいいけれども、せっかく行って、「いいな、いいな」とみんな感じたなら、一回やってみたらどうかと思って。

○馬場委員長 加藤委員、それについては全体の報告会、いろいろなやり方があったんですね。

○加藤委員 例えば、テーマを決めて、高校生だったら社会に出るに当たって、いろいろ疑問もあるだろうし、そういうのを聞いてみたりとか、商工会だったら、どういうふうに今湖西は考えているかという、フリートーキングみたいなものでもいいので、どういうふうに考えているのかなというようなことを、一回個人的にもやってみたいと思っているけれども。

○馬場委員長 わかりました。その点については、広報広聴特別委員会でやろうよというふうなお考えでよろしいですかね。

○加藤委員 できれば提案して、一回ぐらい何かやったほうがいいのではないかなと思うんですけども。議会報告会はどんどんレベルは上がっていくかもしれないけれども、それだけでは何となく、今まで何年間もいろいろなところへ行って、「ここはすばらしかった、すばらしかった」で終わってしまうのでは、失敗してもいいから一回やってみたらどうかという心構えだけを発表するだけでもいいと思いますけどね。

○馬場委員長 その内容については、また検討して。一応中心は、1つの考えとして広報広聴でやろうよという考えでよろしいですかね。議会報告会は恐らく全議員さんの形になってくると思うんですけども。それについては、どうですか。

○加藤委員 提案だけして、議会全体で考えてもらえばいいと思いますけれども。それで、ここでやれといたら、ある程度、基本線を決めてやれば。先ほど言ったように、どこでどのぐらいのときに、どういうふうにするかぐらいを決めて提案して、みんなに賛成してもらってやるという方向でいったらいいと思います。反対が多かったらやめればいいので。提案だけでも。

○馬場委員長 今の御意見に対して。

○楠委員 加藤委員が言われるのも、もっともだと思っていまして、今は議会報告会の話、まず取り急ぎ方向性を出して、もう一方で、今、加藤委員が言われたように、意見を聞く場というのは、後でお話ししようかなと思ったんですけども、各常任委員会マターでどんどんやったらどうですかという提案を、商工会であったり、婦人会であったり、医療機関であったり、教育関係であったりということは、せっかく先進地を視察してきたので、ぜひきょうも常任委員会の委員長さんがいらっしゃいますけれども、まず委員会で持ち帰って、委員会の中でまず提案をして、各常任委員会のメンバーもいらっしゃいますので、そういったことをあしたの報告の中にも取りまぜていただいて、できることはすぐやっつけようというのが加藤委員のお考えだと思いますので、その部分については、私も賛同

していきたいなというふうに思います。

以上です。

○馬場委員長 行政視察を生かしていただいているということで。ほかにどうですか。神谷委員。

○神谷委員 要するに、議会報告会という今までやってきたものは今年度開きましようということですね。今、加藤委員と楠委員がおっしゃっているのは、それとは別に、やはり常任委員会報告とか、挨拶報告とか、そういう場を設けるということですか。それとも議会報告会の中に、今までのように各常任委員会でいろいろ報告をしてもらうという考え方。ちょっと話がそれるかもしれませんが、予算決算も過去たしかやってきて、去年の報告会が初めて予算決算からかけ離れまして、それぞれの常任委員会のテーマに基づいて報告を行い、意見交換を行いましたね。参加者の人数が多い、少ないということが問題ではなくて、参加してくださった方がいかに、申しわけないですけども、満足感なり、何なりを得て帰っていただくかというほうが、私は重要だということをずっと考えているんですけども、ただいまの話聞いていて、自分の中で整理がつかないものですから、いま一度確認させていただきたいと思います。

○馬場委員長 今、神谷委員のほうからお話がありましたけれども、議会報告会は別の問題という形で、加藤委員はお考えですかね。加藤委員。

○加藤委員 このところでやればやってもいいし、提案して、全体でそういうような方向で考えてもらってもいいと思うんです。そうしないと、ここだけでやろうと思ったらオーバーワークになるかもしれないし、ただ、道筋だけは決めてやって、こんなことを考えているけれども、どうでしょうかというような全協か何かで提案したらどうかと思うんですけれども、当面はね。

○楠委員 私は議会報告会とは分けて、市民の皆さんの声を聞くということは拡大をして、常任委員会マターで各市の団体とお話を聞く機会を持たれてはどうですかというような提案を、この特別委員会からしてはどうかかなという提案です。

以上です。

○馬場委員長 提案して、やるのは常任委員会でやってもらうんですか。その辺のところはどうですか。

○楠委員 それでいいと思います。

○馬場委員長 渡辺副委員長。ちょっと整理が難しいと思いますが。

○渡辺副委員長 議会報告会は議会報告会で、本筋の流れとして考えるべきだと思いますけれども、今出た商工会、高校生、商工会は各種団体版ですよ。各種団体版の1つだと思うんです。商工会という大きな組織なので、ここで取り扱ってもいいよ。常任委員会ではなくて、ここで取り扱おうというのは、それはそれでいいと思いますけれども、高校生は少なくとも、ここで取り上げるべきだというふうに思います。

あとほかに、議会中継とかウェブサイトとか、いろいろ課題がありますけれども、「この委員会は1年間何をやった」と言われると困るので、報告会はやると。そのほかに高校生との話し合いの場面は、一回検討してみると、模索してみるということで、これは相手のある話なので、こっちだけの思いをこうだと言うわけにはいかないので、学校側といろいろ調整が必要で、視察に行ったところもかなりの努力をしているんですね、議会を開催するまで。議会までとはいかないまでも、お互いに顔を合わせていろいろな意見を交換するというので、事前にかんりのことをやらないと、高校生はどのぐらいの地方自治に関して問題意識を持っているかというのは、我々もよくわからないので、そこらもジャブを入れておいてからやらないとできないと思うので、そういう意向が皆さんのところで合意がとれたら、正副委員長で高校へ行ってみるということもやらなければいけないなというふうに私は思いますけれども。高校生との話し合いは一回チャレンジしてみようというのは、ここで決めていただければ、余り遅くなると入学試験だどうのこうのというのがあるので、早目にこれはやらなければいけない仕事だと思いますので。それはそれに置いておいて、各種団体版というのは常任委員会にできるだけ任せてみると。場合によっては、ここで大きな組織の場合

には取り上げてしまうということも可能かというふうな思いがいたします。

○馬場委員長 ありがとうございます。今、渡辺副委員長が言われたような形の中で、高校生議会は当委員会としても考えるべきかなというふうな私も考えを持っていますが、広報広聴特別委員会として、議会報告会は当然やるねという話の中で、ある程度確定しておりますが、せっかく今回の行政視察の中で、こういったことも取り入れているというなら、広報広聴委員会として何らかの形ができるならば、結構労力もいるかもわかりませんが、高校生議会というのを今の時期にある程度、皆18歳以上の選挙権ができたということで、やるべきことかなというふうにも感じてはおります。それは最終的な結果は、この委員会で結論を出していきたいなと思っておりますけれども、先ほど、加藤委員、楠委員が言われたように、各常任委員会でも、それがある程度煮詰まってくれば、出張講座でも出張座談会でも何でも形はいいですけども、ある程度こっちで提案できるように、各常任委員会さんのほうへも話の投げかけができればというように考えております。

それでは、先に戻させてもらいますけれども議会報告会の開催、先ほど、開催については1月下旬ごろというふうなお話が出ましたけれども、これからの議会の日程等いろいろ考えると、その辺になるのかなと。一応、そこらを目指にということで、きょうはある程度方向だけ決めたいというふうに思っていますので、その後の具体的な中身とか、そういうものについてはまだこれから。ことしは2カ所だよというふうになれば、また違って来るし。そういうところについては、内容についてこれから煮詰めていきたいと思っておりますけれども。一応、1月下旬ごろに議会報告会を開催するというので、ちょっと確認をさせていただきたいと思っておりますが、よろしいですかね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○馬場委員長 それでは、議会報告会については、1月下旬ごろにと。内容につきましては、また、これから再度煮詰めていきたいというふうに考えておりますのでよろしくお願いいたします。神谷委員。

○神谷委員 結局は報告会を、この委員会がメインでいろいろ役割とか、前回もありましたけれども、そこまで決めてしまうのか、ある程度、実行委員会組織に……。ごめんなさい、中村委員、そういう意見が出ていたわけですよ、前回。ここが責任を持つのか、実行委員会組織としてやるのかという、そこら辺も明確にしていかないと、この間のように、また二の舞になっていってしまうので、そこら辺はここで話し合って、こういう方向性でと発言していいかどうか、私はちょっとわかりませんが。視察に行ったところでは、役割分担まで広報委員会とか、そこら辺で決めて、当てはめてありましたよね。そこら辺が、うちの広報広聴特別委員会は、権限がちょっとまだ曖昧な中で難しい部分があるのかなという気はしましたけれども。

○馬場委員長 要は、当委員会にどこまでの権限があって、こっちで決めたものは、後は正副議長のほうで了解していただければ、そのまま進むということになるんですけども、今の段階だと、そこまではっきり言えないところがあるものですから、その前段階を、先ほど渡辺副委員長が言われたように提案していただきました。それができて、了承ができれば、実際に議会報告会を開催するに当たり実行委員会をつくるのか、立ち上げるのか。あるいは当委員会でやってしまっ、役割まで決めてしまうのかという、その辺のところは一回、正副議長を交えた中で話をしないと、また振り出しに戻ってしまうという可能性がありますので、一度、正副委員長で相談させていただいて、正副議長とも。その辺のところまで確認した中でないと、1月ごろにはやりたいということだけはやらせていただきますけれども、中身の運営の方法とか、実行委員会を立ち上げるについても、その辺のところは事前の調整をさせていただきたいと思っております。

○豊田委員 実は、ことしの運営の仕方、ちょっと気になっていた部分なんですけれども、本来、広報広聴特別委員会が扱う議案の大部分が、議会運営委員会が扱うべきものとラップしているんですね。その極端な例が今回の視察だったと思います。議会運営委員会も広報広聴特別委員会も、同じような趣旨の視察を行っていたと。手前勝手な例になりますけれども、以前、議会基本条例推進特別委員会をつくったときには、議会運営委員会は、議会基本条例推進特別委員会の決定をそのまま飲み込みますという大前提で動いておりました。今回、今の問題で委員長、副委員長、

議長、副議長を交えて話をするのであれば、議運にも入っていただいて、議会運営委員会と特別委員会とのあり方も、一度そこで線を引いておいていただかないと、同じことを繰り返すことになりかねないという懸念を持っておりますので、今の検討課題の中であわせていただければと思います。

○馬場委員長 そこも含めて、一度調整の場をとりたいと思っております。渡辺副委員長、どうぞ。

○渡辺副委員長 議会報告会というのは、議長の名のもとに全体としてやるべきだなというふうに思います。ただ、会場準備とか印刷物、ポスターをつくるとか、そういう細々したものは、汗をかくのはここがやるべきだと。だけでも、やるに当たって基本が決まっていないので、どうすればいいかわからないというところがあるので、最終的には全協か何かで議長が主体になって、委員長が報告してくれということで、委員長報告を議長の名のもとにみんな了承するという形はとらなければいけないと思いますけれども、それが実行委員会というなら、実行委員会ですけれども、一応そういうことで、基本を決めるのをまず先にやらなければいけないので、基本を決めるのは、議運の委員長も入ってもらうということで、それはそれでいいと思いますけれども、そここのところを一回、ちょっと話し合いの機会をつくと。話し合いの機会をつくるんだけれども、また1から話をするのは大変なので、せっかくこういうメンバーがあるので、議運ではこんな話題が出ましたよということを、そこで報告しておいて、最終的にどうしますかというような話ができれば、その時間も短くて済むので。私はやり方はいろいろな意見があると思いますけれども、去年の特別委員会の報告書、ここで議会報告会についてという5行の報告書があるんですけども、私はここはかかっていないので、どういう話し合いがされたか。こういう5行の文章に至った経緯とか、そういうのは説明をさせていただいて、これをどう踏まえて、今回やるかということを話をしてはどうかと思うんですけども。提言の3ページに議会報告会については、こうした方がいいのではないですかという提言があるんですね。これは中村委員のほうで。

○馬場委員長 暫時休憩とします。

午前11時20分 休憩

午前11時25分 再開

○馬場委員長 それでは休憩を解いて、会議を進めさせていただきます。

先ほど、渡辺副委員長からの質問がありましたので、中村委員のほうから御答弁をいただきたいと思います。

○中村委員 議会報告会は議会の今までやっていた報告会を年1回やるのが適当であって、それを2会場ぐらいやって、後はそれぞれ議員が大勢並んでいくというのも話づらいということもありますので、それぞれのグループに小規模に分かれて、市民との意見交換の場をふやすために、各種団体や若年層にも配慮して、お互いに話し合いができるような場をつくって市民の参加をしてもらうという方向で決まったと思います。

以上です。

○馬場委員長 渡辺副委員長、よろしいでしょうか。

○渡辺副委員長 はい、結構です。

○馬場委員長 できるだけ話しやすい場をつくりたいというふうな思いがあったと思いますので、やはり議員が大勢でどっと行くと、なかなか市民の方も発言しづらい場面があったのではないかなと。それで今回の提言の中に入っていると思います。

それでは、この報告会については、先ほども決まりましたので開催するというので、1月下旬ごろということの確認をさせていただきました。この後、そのほかには加藤委員、また高校生議会、渡辺副委員長のほうからもありましたように、進め方について、ここで確認できる部分まで進めていけますか。この辺のところについては、楠委員。

○楠委員 まずは、このメンバーの皆さんで合意ができれば、特別委員会のほうから全員の議員さんに提案ができるかと思いますが。まず、ここで確認をされていくのが順序だと思います。

○馬場委員長 今、楠委員のほうからありましたが、高校生議会なり、加藤委員のほうからありましたように、常任

委員会というふうな話も出たんですけれども、その辺についてはどうでしょうか。当委員会としてやったほうがいいというふうな御意見ならば、そこで確定して、全議員さんのほうへ全協なりで報告をさせていただきたいなと思っているんですが。その辺の御意見はどうか。

○楠委員 せっかくの機会ですので、相手のあることですので、まず、提案できたらなというふうに私は思います。

○馬場委員長 それはどれについて。

○楠委員 高校生議会ですね。はい。

○馬場委員長 荻野委員。

○荻野委員 私についても、ぜひやってほしいなと。やっぱり相手のあることだから、早急にやろう、やろうではなくて、もう今年度できなければ、来年度、これから高校生は受験だ何だかんだとなってくるので、できれば5月、6月、7月の時期のほうがいいのではないかなという気もするものですから、ぜひその辺でやることはやりたいなと思います。

○馬場委員長 豊田委員。

○豊田委員 皆さん、イメージされているのは、議場を使つての高校生議会ですか。それとも、高校生と広報広聴特別委員会との意見交換ですか。ちょっと言葉の意味合いが、どういう意味合いだったのかなと思って。

○馬場委員長 今私も確認しようかなと思ったんですけれども。楠委員、どうぞ。

○楠委員 まずは、意見交換ぐらいから始めて、そういうふうな具体的な提言があるのであれば、議場で行いましょうかというぐらいのステップを踏んでやればいいのかというふうに思いますけれども。

以上です。

○馬場委員長 神谷委員。

○神谷委員 まずは、いろいろな意見がありますけれども、私もまずは高校生との意見交換会でいいのではないかなと思います。そういった中で議会としての出前講座部分、議会とはこういうものだよとか、そういった情報も提供しながら、後はまた高校生のほうから、こんなことについて意見交換したいというものをお願いしておいて、自分たちも答えを用意して、まずは1回目をやってみたらどうかとは思っています。

○馬場委員長 ほかによろしいですか。一応、高校生を対象にした意見交換会、また、それがいろいろな意味で発展すれば、高校生議会なり、中学生議会とかいろいろ、いきなり議会というと、かなりウエートが高くなってくると思いますので。先ほど、渡辺副委員長のほうからありましたとおり、一度、高校生、学校のほうのお考えも聞かなければいけないと思いますので、それについては調整をさせていただきたいなと。当委員会としては、高校生を対象にした何らかの意見交換会を実施していく方向ということで、これについてはよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○馬場委員長 ありがとうございます。それでは、時期的にはどのような形になるかわかりませんが、副委員長と一度、高校訪問して話ができればというふうに考えておりますので、具体的な形が出てきたら、また、その都度報告させていただき、具体化していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

ほかに、こういったものをやりたいというような。吉田委員。

○吉田委員 今の高校生との話し合い、それは異論はありません。ただ、今後進めていくということになると、もしやるならば早くやらないと。少なくとも年内にやらないと、それこそ年を越せば受験だし、それか来年ぐらいの、さっき荻野委員が言われたように5月、6月、7月ぐらい。夏休みぐらいを含めてやるというように持っていくか、そこら辺の照準を、ここだけは今決めたほうがいいのではないかなと思いますけどね。

○馬場委員長 この高校生に関する部分については、やはり相手のあることなものですから、一度、副委員長と訪問して、できれば早いほうが私らもいいんですけれども、その辺については正副のほうにお任せいただければと思いま

す。できるだけ早くはやりたいという思いはありますので、それと受験等もありますので。加藤委員、どうぞ。

○加藤委員 やはり教職員のスケジュールというのをつくるんですね、もうそろそろ来年度ね。ですから今から年度内にやるというのは無理かもしれませんね。6カ月ぐらいかかると。ですから今ぐらいから言っておいて、来年ようやく受験が終わって、新しい生徒が入ってきてからやるというような運びになるのではないかなと思うんです。

○馬場委員長 ありがとうございます。その辺の御意見もいただいて、できるだけ早急に学校訪問をさせていただきたいなと思っております。豊田委員、どうぞ。

○豊田委員 たまたまこの席に議運の委員長さんもおられるので、打診なんですけれども、今の会話をとりあえずあしたの議運で、「特別委員会はこのことを考えているようですよ、承知しておいてくださいね」というようなお話をしておいていただくのが、この後、物事を進めるに当たっては要点になってくるのかなという、取り越し苦労なんですけれども、感じておまして、委員長さんのほうから、よしなにお計らいいただければ。

○馬場委員長 よろしく願いいたします。あしたの委員会報告の中では、そこまではまだできませんので。

○豊田委員 議運の中で最新情報として、特別委員会ではこんなことを検討しているようなんですけれども、承知しておいてくださいというジャブだけ出していただければ、動きやすくなるのではないかなと。

○馬場委員長 ぜひよろしく願いいたします。きょうは大きく2つのことを決定させていただきました。また、具体的な中身については、今後の広報広聴特別委員会の中で決定させていただきます。それ以前に一度、特別委員会の位置関係をしっかり、もう一度確認をしておきますので、よろしく願いいたしたいと思います。

きょうは、そのほかに何か御意見は、どうぞ。

○加藤委員 余り大っぴらに言えることではないんですけど、2つの市を視察したんですけれども、福知山市が7万9,000人で、亀岡市が9万人ぐらいで、政務活動費を見ると月1.5万円をもらっているんですね。年間18万円ですね。湖西市の場合は1万円ですよ。何か足りないような。もう研修に1回行って4万五、六千円使ってしまうと。あと1個、自分の研究だとか陳情に行くとなくなってしまいます。書籍を買おうと思ってもないというのではないかなと思うんですよ。女性議員を見てみると北陸も行ったでしょう。去年か。2泊しているし。そういうようなことで、今言ったからすぐなるというわけではないけれども、1年先か何年先になるかわからないけれども、そういうような考えはどうでしょうかねということ。

○馬場委員長 当委員会と所管が違ってくるので、議運の委員長が見えますので、また何かの形で、そんな中で検討して……。

○加藤委員 全体的に考えないといけないものね。

○馬場委員長 そうですね。

○吉田委員 それこそ、全員協議会か何かのときに、それぞれ自由に発言をしていろいろやっていけば。そのほうがいいと思いますよ。

○馬場委員長 前段階で、議運でちょっともんでもらって、全協でみんなで議論するという形がいいと思いますので。

○豊田委員 それに重ねて申しわけないんですけども、今回我々の検討課題の1つになっているウェブの問題もあるんですけども、それもどっちかという予算をきっちり確保していただかないと、You Tubeも活用できないような、Ustreamも含めて、そこについては本来からはこの委員会から早目に報告を出して、議会として事務局にバックアップする形で動いていかないと、今のところ予算の積算もできないような状態なのかもしれませんけれども、早目の動きをしていかないと、自分で自分の首を絞めているようなことも感じられますので、また御検討いただきたいと思います。

○馬場委員長 広報関係で、しっかりそういった部分も必要な部分ですから。やはり予算にかかわってくる部分については、早目、早目に言わないと、予算立てしないと、できるものもできないというのものもあるし、やはり議会を知っていただくための手段として、今のメディアを使ってやるのも大事なことだと思いますので、当委員会としても提言

してまいりたいと考えております。報告会の中でも、少し入れようかなと思っておりますけれども。渡辺副委員長。

○渡辺副委員長 私もそのことを申し上げようと思っていたんですけれども、結構、広報広聴にお金を使っているんですね。見に行ったところは、金額まで明示してくれてありましたけれども。議会中継、それからウェブサイト、フェイスブック、議会議長の記者会見の問題とか、いろいろ参考になるお話が結構ありまして、これは一回、我々の年代はちょっと苦手な部分なんですけれども、事務局にしっかり検討してもらって、検討したけど、銭がないのでしょうか、もう少しそこは力を入れてやってみたらどうかというような、予算との絡みがあるものからね。これは今後の議題に計上して、次から1つずつやっていくということは必要かなというふうに私は思いました。

○馬場委員長 いろいろ御意見ありがとうございました。本日の広報広聴特別委員会は議会報告会の開催の部分が1月下旬ということと、あと高校生に対する意見聴取、また、そういった機会をつくると、それと今、議会に課せられているというか、広報の部分でウェブサイト、フェイスブック、いろいろなメディアの使い方があると思いますので、そこらもあわせて進めていけばということで御意見をいただきました。そんな中で、本日の広報広聴特別委員会を終了させていただきたいと思いますが、今手が挙がりましたので、吉田委員、最後ですけれどもよろしくお願ひします。

○吉田委員 先ほど、あすの議運において、きょうの高校生との意見を聞くような話題が上っているよということをお話ししたらどうだという御意見があって、「いいですよ」と私言いましたけれども、よくよく考えてみたら、あした全員協議会があって、委員長が福知山市と亀岡市へ行ったときの視察報告をされると思うんですね。その終わった後に、むしろ委員長のほうから、こんなこともきょうの意見交換の中で話題に出たということをお報告しますというのが一番筋が通っていて、一番効果的ではないかなと思いましたが、その点、ぜひそうしていただけたらということをお申し上げたいと思います。よろしくお願ひします。

○馬場委員長 ということによろしいですか。次回はいつごろにということで、一度それまでに高校生の関係は早急に行ってきますので。それはまだ時間がかかると思います。

本日の広報広聴特別委員会は以上とさせていただきますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○馬場委員長 それでは、副委員長、閉会をお願いいたします。

○渡辺副委員長 それでは、長時間御検討いただきましてありがとうございます。なかなか難しい課題がいろいろありますけれども、時間がないので、また追々御相談をさせていただきたいと思ひます。本日はどうもありがとうございました。

〔午前11時42分 閉会〕

湖西市議会委員会条例第28条第1項の規定により署名する。

委員長 馬場 衛